

村上市長賞

『税と共に生きる』

村上市立村上第一中学校 3年

榎本 奈緒 さん

「消費税を払うの嫌だなんて人いますか。」これは税の授業で来てくださった方が私たちに質問した言葉だ。手を挙げた人は少なかったが、実際、私は嫌だと思っていた。だがそう思うと同時に私たちが税を払うことは日常生活において“当たり前”になっているから手を挙げた人が少なかったのかな、と思った。税を払うのは当たり前のことなのか。税が払われなかったらどうになってしまうのか。

まず、税を払わなかったら私たちがこうやって教育を受けることができなくなってしまふ。それは私たち子供にとってはあってはならないことである。大人はどうか。大人も収入が減り、まともな生活がおくれなくなってしまうだろう。高齢者の方も安心して暮らせるための施設やサービスにたくさんの税金がかかってしまふので、安心して暮らせないだろう。これは推測であるが近年、少子高齢化が進んできているので、



そう遠くないうちにこの推測が現実になってしまうかもしれない。それを防ぐために国は消費税率を引き上げているのだ。昨年の十月から消費税率が8%から10%に引き上げになった。ニュースを見ていると賛否の声があがっていたのを覚えている。『払うお金が増えてしまう。』

お金を今までより多く払うことは、誰でも良い気持ちは抱かないだろう。私もそうだった。なぜならそのお金は将来生きる世代への負担の先送りを減らすことや社会保障制度の持続可能性を高めることにつながるなんて思っていなかったからだ。私は授業を受け、初めて「社会保障制度」という言葉を知った。これは前に言った少子高齢化とつながっているという。高齢者が増えることによって年金や医療、介護などの社会保障費が増えてしまうことが予想されている。しかし、その費用を負担するのは働き手である。その働き手が今、少子高齢化にともない、減っているので一人一人の負担が重くなるのだ。だから老後の安定した生活を安心して暮らすためには、多くの費用が必要になる。その財源の中心はやはり税金なのだ。では、私たちが安心して安定した生活を送るためにはどうしたら良いのか。答えは簡単だ。“税と共に生きる”ことを当たり前になれば良いのだ。物を買うときに消費税を払うのは嫌だな、めんどろだな、なんて思わないで私たちのために払っていると考えると悪い気はしない。私たちが普通に日常生活を送れるように一人一人が税のことを理解し、意識することがこれから生きるために大切なことだと授業を通して感じる事ができた。だから私もこれからは自分の将来のために税を払っているとって生活していきたい。